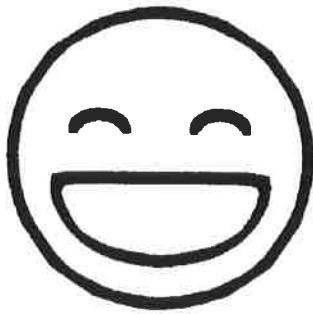


HSK N P O 法人 「文福」 ニュース ❀❀❀❀



# 「障」ちゃん



NO.222

## 冒頭の一言

障ちゃん肉

もう2017年も秋に突入してしまいました。皆さんどうお過ごしでしょうか。今回はいつもとは違い、久方ぶりに（肉）が出張っております。

最近、時間を見つけてはうろちょろとお散歩をしているのですが、バリアフリーの建物をあまり見かけなくなったように感じます。特に駅前。一見そのように見せかけて細かいところにバリアがある…。そんな感じ。バリアフリーフリーと騒いでいたのはもう今は昔なのでしょうかねえ。新しい建物なんか平気で段差があったり狭かったりする始末。なかなか世の中難しいものですねえ。という愚かにも愚痴から始まる222号のスタートです。

### —もくじ—

|                 |               |                 |
|-----------------|---------------|-----------------|
| 冒頭の一言 … 1       | ためきマスお詫び… 2   | Penko … 3-4     |
| スタッフのお話 吉田健太… 5 | 学習会報告 … 6     |                 |
| バリアフリーは 八木勝自… 7 | 本紹介 … 8       | 総会講演議事録 … 9-12  |
| 運営会議報告 … 13     | 今後の予定 … 14-15 | ありがとう+編集後記 … 16 |

一九九四年八月四日第三種郵便物承認  
〒100-0001 東京都千代田区千代田三丁目三番三十一号



# 12回たぬきマスライブ パーティー中止のお詫び

12月17日(日)に予定していた夢宙人企画「たぬきマスライブパーティー」を今回、中止することにしました。メンバーの力不足が原因です。毎年続けてきた企画なだけにこのような形になり、大変申し訳ありません。楽しみにしてくださっている方々には謝ることしかできません。誠に申し訳ありませんでした。

只、たぬきマス自体をもうやらないというわけではなく、今年はやらないということです。

今回のことを反省し、今後このようなことがないように務めていきたいと思っています。今後とも夢宙人企画を宜しくお願い致します。



## Penko のおひとりさま 珍道中!! (part 33)

長く通いつけているところ  
最近建物が新しくなりました。

②富山県リハビリテーション病院・こども支援センター  
(旧高志リハビリテーション病院)

1984年10月に富山県内初のリハビリテーション専門病院として開院し、昨年1月より子どもさんの部門と統合して新しい建物に移転して(同じ場所ですが)現在に至っています。前の建物はそのまま残っています。

リハビリのほかにも他の病院と同じ様に通常の診療もあります。

場所は富山市北部の下飯野(しもいいの)というところで、富山市民球場(アルペンスタジアム)が近くににあります。もともとは敷地内の中に子どもさんの施設(高志学園)や大人の施設(授産・更生・療護)、小学校に入るまで子どもさんを対象とした通園施設や支援学校がありました。新しい建物が建設されるにあたり、高志学園と授産・更生施設が40年近く経っていて古くなったこともあり、取り壊されて駐車場になりました。高志学園と通園施設を利用していた子どもさんたちは新しい建物へ、授産・更生施設の利用者さん達は空になった通園施設と前の病院の建物で生活をしておられます。

私が小中高と大人になってから四半世紀と一生の大半を過ごしてきた施設はもう跡形もありません。今残っている建物は支援学校と重度の障害者施設があります。以前は療護施設と呼ばれていました。

救急病院ではないので急病になった時は、済生会病院や中央病院に運ばれています。

新しい建物なのですが、リハビリをする部屋では晴れたときに立山連峰が一望できます。それから中央待合室から出たらすぐバス停があってとても便利です。

開院からずっとお世話になっていて、スタッフさんもずっとおられる方が何人かおられ、気心が知れてる感じです。

前の職場にいた時に婦人科のある病院で検診を受けたのですが結果、ある病気になったことがわかり、必ず採血をするように言われました。採血は苦手なのです。実はその病院では私のような者を採血した例がなく、いつも免除してもらっていましたが、そうもいかなくなり観念して「いつも通院しているところでなら採血を受けます。」ということで収まりまして、今も2ヶ月に1回通院して注射器と戦っていつも負けています。両腕がないので利き足である右足から採ってもらいます。看護師さんが代わる代わる採ってくれます。血管が見えにくいので、注射をする前にホットバックや靴下用カイロで足を温めます。処置室にはクラシックが流れていて落ち着くはずが痛さに負けてい



よくじょうしん  
翼状針

ます。採血がうまくいくと看護師さんから「天使が舞い降りた～」うまくいかなかったときは「神様に見放された～」とされています。羽と管のついた注射針で採ってもらっています。この注射針を翼状針（よくじょうしん）といいます。でもね、管に血液が入ってきた時はうれしくなってそのあともがんばれます。

通院に来るたびに注射器が私を待っているように思えてなりません。

いつまでも健康な体でいて、これ以上悪くならないように日々の生活を過ごしていきたいと思いました。



## 今までを振り返ってみるに…

吉田健太

ニュースに書くのは数年ぶりになります。文福スタッフの吉田健太です。なかなかにして月日が経つのは早いものでもう 2017 年もあと僅かとなりました。流されるままに過ごした 20 代も終わり、いつの間にやら 30 代になっていた私です。もう、おっちゃんや（笑）

さて、文福に関わりだして 13 年が経とうとしている今日この頃、振り返れば、この仕事を始めて、色々あったなあと思います。自分の場合はこの仕事が初めての仕事になります。遠い目をしながら振り返って見ましょう。

1 年目では何も分からず、毎日を過ごすのが精一杯でした。ヘルパー業務には自分はむいてないかもしれないと思ったのもこの時だったかなあ。とにかく気持ちばかりが逸り、空回りばかりでした。よく怒られました。2 年目で、やっと仕事のことが分かり始めました。周りの仕事の状況も分かり、空回りも収まってきた頃。今思えば一番気力が充実していた時期かもしれません。3 年目で理解したと調子をこきました。自分でも仕事できるやーん！と少し天狗になっていた時期ですね。4 年目で天狗の鼻が折れ、今まで培ってきたことはなんだったんだろうと落ち込み、悩み、沈んだ時期です。5 年目で、もう 1 回頑張ってみようと思おうと立ち直ろうとしてました、きっと。6 年目か 7 年目か忘れましたが、仕事中心すぎる生活になっていることに気がつき、少し力を抜こうとした時期で、それからはマイペースで良いから頑張ろうと思ってズルズルと今に至ります。なんとまあ、浮き沈みを繰り返して今がある感じです。どこかで「自分のことは自分がよく分かっている」と耳にしたことはありますが、あれは逆ですねえ。「自分のことは自分では分からない」と若輩ながら思います。今自分が置かれている状況や環境、それらはその渦中にいるからこそ見えない。第三者に見てもらって、忠告してもらって、よくよく考えてみて、ようやく気づく。本気で忠告してくれる第三者の意見は、“あながち間違っていない” のかもしれません。

はてさて、これからどうなっていくのか、どこへ向かうのか。もういい歳なのでその辺も考えながらやっていかないとそろそろダメなのかもしれません。自分自身に向き合うのが一番苦しい。でもそれらをやった先に何か見えてくるのかもしれないなあとも思います。そんな中途半端な 30 代を過ごしている、いちスタッフです。今後とも NPO 法人文福をよろしく願います。

## 学習会の報告

9月15日文福事務所で午後7時から学習会がありました。  
今回は『母と暮らせば』というDVD鑑賞をしました。

この『母と暮らせば』の内容は、第二次世界大戦の終結間際の長崎に原爆が落とされる直前から始まります。

主人公の浩二は、長崎医科大学の医学生で勉強に励んでいました。しかし長崎の原爆投下により、主人公の浩二や本当に多く人々が亡くなります。

主人公の浩二が亡くなって何年か経ったある日、浩二は母伸子のもとへ亡霊となり帰ってくるのです。

亡霊なのですが、なぜか姿はしっかり見えるのです。亡霊として実家に戻ってきた浩二ですが、気になっていたのが、学生時代に交際していた恋人の事でした。母伸子は、息子の元彼女に息子浩二は既に亡くなっているのだから、新しい道へ進んで幸せになってほしいと何回も言っていました。

浩二としては亡霊までになり、この世に現れてきたのですから納得できない面があるようでしたが、原爆投下も自分が死んだという事も運命だと悟ります。そして、浩二の元彼女は同僚の男性と結ばれました。

時期が過ぎ冬の季節が到来し、母伸子の身体が衰弱していくのです。

結末は母伸子が衰弱して死に、その母を息子の浩二は迎えに来て、母と息子は手と手を取り合って天国に旅立っていくところで終わっています。

私はこの作品を観て感じた事は、母と息子の情の強さ、そして何と云っても戦争の怖さ愚かさ、その怖くて恐ろしくて愚かな国どうしの、あるいは宗教上の考え方の違いでおこる喧嘩(戦争)をおこしてしまう人間の愚かさを、改めて痛感させてもらった作品でした。

参加者は12-3人と文福の内輪だけでしたが、皆さん真剣に見入っておられ、秋の夜長にこんなDVD鑑賞も良いなと思いました。

皆さんもこの『母と暮らせば』を観てみられてはいかがでしょうか。



文責・中村 薫

# バリアフリー法はどこへ

八木勝自

この号の冒頭でも書かれている様に最近の街の公共の新しい施設、つまり街のある程度の大きさのある建物は入口がスロープがなくて階段ばかりだったり、入口が普通の車いすでギリギリ入れるけども、中にはこれまたどう言う訳かスロープがなくて階段だけのお店や店の中がカウンターで車いすなどでは高さも高くて問題だけど全席が備え付けの椅子で車いすなどのスペースがなくて車いすが全く利用できない飲食店や新しい建物が増えています。

私が本当に疑問に思っているのは、お店の経営者やその建物を作っている施工者も問題ですが、建物には必ず建築許可がいるはずでそれを許可している県や市の建築指導課が何故それを許可しているのか疑問に感じるのです。そういった建物は小さなコンビニ並みの広さがあれば、バリアフリー法で許可がされないはずなのです。それが何故許可されているのか私にはさっぱりわからなく、疑問に思っているこの頃です。今度時間があればそういったことを調べてここで報告したいと思っています。

# 本の紹介です

私が書いた本ができました。

『脳性マヒの私が六十五歳の現在書いておくこと』

四六判 206 頁 自費出版 (1300 円)。

私、河上が生まれてから今まで、数え切れないことがありました。悲しいこと、うれしいこと、差別されて悔しい思いをしたこと、後悔した事など、それは、一人ひとりあると思います。それをただ個人的な事としてしまいこんでいく、それは、それで良いかも知れません。

しかし、私は自分の人生がどういう時代、  
どういう家族の中で育って来て、今のよう  
な私がいるのかを私を知っている人も、知  
らない人にもこういう人生もあることを  
知って欲しいと思い書きました。ひとりで  
も多くの人に買って読んでもらいたいと、  
思っています。

お問い合わせは、

NPO法人文福

☎076-441-6106

河上千鶴子

☎076-460-9130

よろしくお願ひします。

脳性マヒの私が  
六十五歳の現在  
書いておくこと

河上 千鶴子



## 文福総会 記念講演報告

6月に第15回文福総会が行われ、午後から京都日本自立生活センター介護コーディネーター渡邊琢<sup>わたなべたく</sup>氏をお迎えて『介助者（介護者）の夜明けは近いのか？～障害者の自立＝介助者（介護者）の確保・ひろがり・定着～』と題して記念講演を行いました。講演内容を数回に分けて掲載します。

### ●はじめに

こんにちわ。渡邊琢<sup>わたなべたく</sup>といいます。京都からやって来ました。普段、日本自立生活センターという所で働いています。

今日は、三つのパートに分けて、最初に去年起きた相模原の事件のこと、それから障害者の自立生活のこと、そして、介助者のこととお話させていただきたいと思います。

今回の講演のテーマは主に「介助者」についてということなんですけれども、介助者のことを語る前に、やっぱりきっちりと、障害者の生き様、自立生活などのことについて知っておかないといけないことがあるだろうなと思うので、まず、自立生活のことや相模原事件のことについて話をします。その後で、「介助者」のことについて話そうと思っています。

### ●自己紹介

まず、自己紹介です。

京都にある日本自立生活センターという所で働いています。「日本」とついている自立生活センターなのですけれども、日本で最初期にできた自立生活センターということなので日本自立生活センターという名がついてます。

そして、自立生活センターの運動体の職員として働くと同時に、居宅介護派遣事業所の介助コーディネーターや介助者をやっています。それから、「ピープルファースト京都」というのを「支援者」としてやっています。

「ピープルファースト」というのはご存じないかもしれませんが、知的障害者の当事者団体です。自立生活センターは主に身体障害の人がリーダーシップをとってやっている団体ですが、このピープルファーストは、知的障害者自身が

運営していく団体です。その支援者をやっています。

それから、介助者の会「かりん燈」というのもやっていました。こちらは最近は動いてないですが、自分自身「介助者」として働き、その介助者として当事者性から、きちんと訴えるべきことは言っていないといけないのだらうと思いい、活動をしていました。

さて、日本自立生活センターってまずどんなところ？ということですが、基本、けっこう古い団体です。もともと1970年代から「車いす仲間会」というのがあって、いろんな人がごちゃごちゃと、車イスの人とか知的の方とか精神の方など、集まってやっていた団体です。毎年夏にキャンプをやるなどして、施設に入所されている方など、困難な状況にある人たちとつながり、交流を深め、地域自立生活につなげていこうとやっていました。その活動を背景として、80年代半ばに日本自立生活センターは生まれました。

日本自立生活センターで近年やっていることを簡単に紹介します。24時間介護実現に向けての行政交渉、介護報酬単価引き上げの運動、それから入院時の介護保障運動などのほかに、ホーム柵設置を求める運動、つまり駅に柵がないと危険なので、ホームに柵をつけてくれと訴える運動、それから公共交通機関での車いす使用者に対する乗車拒否を撤回させる運動、乗務員等の接遇の改善を求める運動、市バス乗務員研修、また、生活保護問題などいろいろやっています。

少し詳しく述べると、24時間介護について、京都では2007から2008年にかけて24

時間介護が認められました。

現在ではこの間ちらっと聞いたところでは、2 4 時間介護を受けている人は、京都市内は 40 数名おられるということです。たぶん今は 50 人ぐらいいるんじゃないかなと思います。それなりに、京都では重度障害の方が介護者を入れて地域生活を営む環境が整いつつあります。

介護報酬単価引き上げの運動について。2000 年代の半ば以降に単価が「ガクガクガクッ」と下がったことがありました。その時に介護者もどンドンやめていって、これはどうしようもないということで、このままでは続けられないと厚生労働省に掛けあいました。ところが、財務省が「うん」と言ってくれない、と厚労省から返される。それで、こうなったら財務省に直接言うしかないということで財務省に行ったりもしました。それが功を奏したかどうかはわかりませんが、重度訪問介護の単価が次年度にぐいっと上がり、なんとか持ち直しました。

入院時の介護保障、入院時ヘルパー派遣の制度化。重度障害者が入院すると、ろくな介護も受けられず、半ば放置される問題。これも数年前からいくつかの自治体で入院時コミュニケーション支援として制度化され、京都市でも実現しました。もっとも来年から重度訪問介護が利用可能となるので、きっと自治体による差がなくなって、入院中のヘルパー利用が全国に認められるようになると思います。

またホーム柵設置については、署名活動を毎月のようにやり、交通局にかけあい、地下鉄路線の一部にホーム柵設置を実現させたりもしています。

街頭活動としては、他にも、東日本大震災とか熊本の震災とかの支援募金も毎月のようにやっています。

公共交通機関での車いす乗車拒否の問題。これは滋賀県のことでしたが、乗車拒否の事例があって、何度も抗議活動をしていたら、ついに

近畿運輸局がバス会社に対して文書警告を出した。警告までいくのは近畿圏では初めてだったそうです。

そうこう運動しているうちに京都市の交通局ですが、とりあえず当事者に研修してもらおうということで、当事者が乗務員研修を最近やるようになりました。電動車いすでの乗り降りとかを乗務員に直接やってもらったりもしています。

まちづくり、まちのバリアフリーチェックとか、まちのいたるところにある段差解消とか、そういうことを調査して改善を求める活動も行っています。

ちょっとした段差もつまづきの対象ですよ。そこにちょっとスロープをつけてもらったりとかする活動もしています。

最近、差別解消法ができたので、それを広める活動もしています。富山でももう条例はできたんですね。京都府においても差別解消法成立の一年前に府の条例ができました。

劇なんかもやって、啓発活動やったりしています。実際にあった差別事例をもとに当事者が劇をして、分かりやすく、「差別ってなんだろう」として伝える活動とかをしています。

以上、だいたい J C I L の運動体の活動でした。

居宅介護派遣事業所の方は結構大きくなってきております。

居宅介護派遣事業所、利用者は 100 名程度、介助者 144 名。職員 3 名、非常勤 20 人以上。大きい事業所になってしまいました。

2003 年設立当初は、脳性麻痺者はほとんどで、たぶん文福さんの今の状況と雰囲気は似ているなと思っていました。

最近では、色んな人と関わりが増えてきて、医療ケアが必要であったり、重度の知的障害・精神障害など様々な方と関わるようになってきました。

自立生活運動は、身体の人を中心にひっぱってきた部分がありますよね、そうすると、知的

障害の人など、自己決定や、判断したり、感情や行動をコントロールするのが苦手な人達がちょっと置いてきぼりになっていました。それでもやっぱり自分たちが主体となって生きていく権利があるよねということで、「ピープルファースト京都」という知的障害者の当事者団体を支援するようになりました。日本自立生活センターとしても事務所全体でバックアップして支援しています。

メンバーの多くは体を動かすのが好きなので、運動したり、歌ったり、たまに会議をして勉強したりしています。

相模原の事件があったときは皆でメッセージボードをもった写真を撮り、それやって自分たちの気持ちを社会にアピールしました。

ピープルファーストというのは、「私達は障害者である前に人間だ。」という意味です。障害者として殺さないでくれというメッセージを出しました。

皆で旅行とかよく行くので、去年は韓国に研修旅行ということで、2泊3日で行きました。初めて海外旅行で不安を抱える人もとても多かったですけども、何とかきっちりと向こうの人とも交流して、無事帰ってきました。

それから、J C I Lでは、子供のころからの関わりが重要だなということ考えていて10数年前から学童もやっています。

もうだいぶ前の活動の様子の写真ですが、ここに写っている小さい子たち、こっちの子はもう一人暮らしを始めるようになっていたりしています。この女の子も、今は一人暮らしの練習を始めたりしていますね。なんかセンターの障害者が、先輩というか、見本になって、「こんな暮らしがあるんだよ」と見せることで、親も本人も何となくできるかなと気になっている感じです。

長くなりましたが、以上がぼくの自己紹介、というか、ぼくの日頃属している団体の紹介です。

## 1. 相模原事件について

さて、これから、まず本題の前半である、相模原事件のことにいきたいと思います。

### ●事件をどう受け止めたか

事件について皆さんはどのようなことを感じて何を思いましたか。

文福さんの機関紙を見せていただいたんですけども。毎回この事件については、しっかり取り上げられていて、いっぱいメッセージを出されてるんだなと感じていました。けれども、なかなか世間的には関心がないというのか、忘れられてしまってる感じはあると思います。で、機関紙とかにも基本的なことは書かれていると思うのですが、この事件は異常な精神障害者の人が施設でしか暮らせない可哀想な重度障害者たちを殺した事件、障害者が障害者を殺した変な事件なのかという捉え方を世間では結構されていたように思うのですが、そうなのでしょうか？そしてこの事件は障害者と関わりのない人達にとって無関係な事件なのでしょうか？

僕の感じ方。僕の感じたことをお話します。

相模原事件のあと。何個か文章を書かせて頂いています。

一番最初は8月9日、事件の2週間後に書いたものです。

「障害者はいなくなればいいという考えから、自分が無縁であるとどれほどの人が言い切れるだろうか？障害者がいなくなればいいと思う人がいるから、地域社会から離れたところに入所施設なるものができるのではないだろうか？障害者とともにありたいと多くの人が願うならば、障害者は施設で暮らす必要はなく、地域で暮らし続けるだろう。あなたの身近には常に障害者がいるだろう。

現状は違う。いたるところでこの社会には障害者を排除する論理が働いているのだ。その排除の論理が極端な形で顕在化したのが今回の事件ではないだろうか？だからこの社会の一員で

ある全ての人々すべてが足元を検証する必要があるのだと思う。」

これは、SYNODOS (シノドス) というインターネット上のメディアに寄稿した「亡くなられた方々はなぜ地域で生きることができなかつたのか」という文章の冒頭部分です。

(この文章はこちらのページから全文を読むことができます。

<https://synodos.jp/welfare/17696>)

この事件の直後、何回か新聞社の人から取材を受けたのですが、障害者が地域で暮らせず施設に行ってしまうことの問題意識をなかなか共有してもらえませんでした。つまり、重度の知的障害があつて意思疎通の難しそうな人、あるいは行動障害がある方ということで、施設に暮らしていることそのものが大きな問題だということが、ほとんど感じてもらえていなかったんです。記者さんの方々に。

「でも施設の中で、専門的な職員さんからケアを受けているから、それはそれでそこで安心して暮らせているんじゃないですか？」みたいな意見を記者さんから言われることもあつて、そもそもどうして施設に入っていたのかとか、それを地域社会の課題としてとらえる。ということについては、中々理解してもらえないまでに時間はかかりました。

そもそも何故、なんで亡くなられた方が地域社会で生きることができなかつたかということ、を、まず問うべきではないかということ、最初は投げかけています。

この文章はかなり多くの方々に読んでいただいて、この事件の背景には「入所施設」の問題、障害者を排除する地域社会の問題がある、ということ、かなり広まってきたように思います。

### ●津久井やまゆり園について

次に、事件のあつた「津久井やまゆり園」はどんなところにあり、どんな施設なのでしょう。か？津久井やまゆり園に行かれたことのある方

はおられますか？

こういう運動界限の印象だと、どんな山奥の隔離された所にあつたのかなという感じがなと思います。

ただ僕が行つてみた印象は、実はそこまで山奥ではなくて、それなりにちょっと郊外にある平凡な大型施設なのかなということを感じました。

京都府内でも、もっともつと田舎の施設とかあるような気がして。やまゆり園には、事件のあつた一か月後くらいにピープルファーストのメンバーと行つてきました。

「神奈川県立津久井やまゆり園」は今、「社会福祉法人かながわ共同会」というところが運営をまかせられています。全面的に民営化されたわけではなく、指定管理者制度というのになつて、10数年前から県は運営をその法人にまかせています。

施設を見下ろせるところに家とかがあり、山もあるのはあるんですけど、こうやって見ると本当に森の中、山の中にあるという施設ではなさそうです。

わりと大きなポイントとしては、10数年前に指定管理者制度となり、県が運営から手を引いたということです。もともとはこの施設自体は、この地域にわりと根づいていた施設らしくて、地域との交流はそこそこあつた。地元の人がそこで雇用されて、地元の商店とかわりと利用して、地元との行き交いはあつたらしいです。けど、県が引き上げ、「かながわ共同会」に運営が移つてからはそういう交流がだんだんとなくなつていった。地域とのつながりってのがだんだん、だんだんと失われていった。という感じと聞いています。

その中で施設がかなり密室化していったんじゃないのかなとも思われます。ひょつとしたらそういう部分も背景のひとつにあつたんじゃないかと思います。

(次号に続きます。)

## 運営会議報告 2017.9.26

### 【学習会】

9月15日「母と暮らせば」の映画上映会を行った。河上が体調不良で不参加。映画を見た人にニュースの報告をお願いする。

### 【部会報告】

河上さん、65歳からの介護保険移行については、来年3月31日まで現行通り。1月から市役所と話し合う。

富山市の、新しくできたユウタウン。ビルの中の店や周辺の店舗などが新しくなった、が設備が障害者を排除しているものが目立っている。部会員で状況を確認する。

### 【派遣】

「ザ☆カイジョ」10月15日、16日、21日やります。締切は10月4日、ポスター配りを頑張っています。

### 【レクリエーション】

12月の「ためきマス」準備中。

### 【障ちゃんニュース】

10月障ちゃんニュースの編集は完了。

印刷は9月27日。

### 【まっち】

印刷が終わり9月25日発送できました。

「ザ☆カイジョ」の申込書を同封して送りました。

次号のテーマは「眠り」です。

次号締め切りは12月末、発行は1月末予定。

### 【事務】

大掃除の際に、掃除機が無かった。掃除機買うことに決定。

電話機は買い替えた、森田さんが使いやすいものを選んだ。

### 【運営会議】

次回運営会議は、10月24日（火）。

報告者 日下



## ◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

- ◎ **かちゃ熱 JUMP (かちゃカチャ熱遊陽 Vol. 3 事前研修会)**
  - 日時 11月4日(土) 14:00~16:30(予定)
  - 場所 射水市大門総合会館
  - 資料代 200円
  - 主催・問い合わせ かちゃ熱実行委員会
  - メール kachanetsu@toyamagata.com
  
- ◎ **行動障害のある方への理解(基礎講座)と支援(実践講座)について**
  - 日時と場所と参加費
  - (基礎講座) 11月19日(日) 10:00~16:00
  - 富山福祉短期大学1号館301 1,500円 学生無料。
  - (実践講座) 12月16日(土) 10:00~16:00
  - 高岡市ふれあい福祉センター研修室 3,500円 学生無料
  - 講師 山口 久美氏(SNOW DREAM取締役)
  - 主催・問い合わせ とやま地域福祉ネットワーク 事務局
  - TEL (0766) 54-0463
  - メール Genkidasouzetfn@gmail.com (坂下さん)
  
- ◎ **映画上映会「もうろうをいきる」**
  - 日時 11月25日(土) 午前・午後
  - 場所 アトリエセーバー(射水市戸破6360)
  - 主催・問い合わせ NPO法人 かもめのノート
  - TEL 076-456-7710 (富野裕子さん)
  - ・手帳をお持ちの方は介助者1名まで無料。
  - ・視覚に障害のある方は「UDキャスト」を使い、音声ガイドで聞くことができますようにします。

- ・聴覚に障害のある方も手話通訳で映画を楽しんでいただけます。
- ・車椅子で使用できるトイレは「竹内源造記念館」にあります。
- ・介助が必要な方は、事前にお知らせ下されば対応致します。

◎ かちゃカチャ熱遊陽（ねっちゅーび）V o l . 3

日 時 12月2日〈土〉開場 12:30 開演 13:30

場 所 アイザック小杉文化ホールラポール「ひびきホール」

出演者 フラワーカンパニーズ・DROPOUT（ドロップアウト）

チケット 3,000円（当日3,500円）

主催・問い合わせ かちゃ熱実行委員会

メール kachanetsu@toyamagata.com

◎ 第6回DPI 障害者政策討論集会

「全てのいのちと尊厳が守られる社会に」

日 時 12月2日〈土〉13:00~16:30（受付開始12:30）

12月3日〈日〉 9:30~16:00（受付開始9:00）

場 所 戸山サンライズ2階 研修室・会議室（東京都新宿区戸山1-22-1）

参加費 3,000円

主催・事務局問い合わせ

認定NPO法人 DPI日本会議 担当：笠柳（かさやなぎ）

申し込み受付メール office@dpi-japan.org

TEL 03-5282-3730 FAX 03-5282-0017

HP <http://www.dpi-japan.org>

◎ 第13回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 inとやま

日 時 12月9日〈土〉12:50~20:30（12:00受付）

12月10日〈日〉9:30~17:00（8:30受付）

場 所 富山大学五福キャンパス

参加費 一般3,000円 学生・若者1,000円

主催・問い合わせ JVCフォーラム（若者支援全国協同連絡会）

全国若者・ひきこもり協同実践交流会 inとやま

メール hikikomori.toyama.2017@gmail.com（山岡さん）



### ありがとう&編集後記コーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### 今後もよろしくお願いします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

10月も終わり、11月には紅葉も終わります。  
これから富山は本格的な冬の準備に入る季節になります。

あと、今年は熊さんの食べるものが沢山あるのでしょうか？

#### \*新規会員・継続会員\*

青木 麻衣子さま 本林 可南さま

#### \*カンパ\*

青木 麻衣子さま 本林 可南さま 河上千鶴子さま

#### \*物品提供\*

石坂 優子さま 瀬戸 紀美子さま 鈴木 美明子さま

☆☆☆☆☆☆ (アパッチ)

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

ぶんぷく

### 編集人：特定非営利活動法人 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3

e-mail: bunpuku@arrow.ocn.ne.jp

HP: <http://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 441-6106

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。